

## ■水の文化31号予告

### 特集「水回り」(仮)

家庭で水とふれる場所といえば台所、トイレ、風呂、洗い場といった「水回り」。「清潔感と風呂・洗い場」「食の変化と台所」「尿利用・下水普及とトイレ」と、特集してきましたが「家の消費空間化と水回り」についてはほとんど触れてきませんでした。いったい「水回り」とは、どのような文脈で語ることが適当なのでしょう。



## 水の文化 Information

### 『水の文化』に関する情報をお寄せください

本誌『水の文化』では、今後も引き続き「人と水とのかかわり」に焦点を当てた活動や調査・研究などを紹介していきます。ユニークな水の文化学習活動や、「水の文化」にかかわる地域に根差した調査や研究などの情報がありましたら、自薦・他薦を問いませんので、事務局まで情報をお寄せください。

### ホームページのお問い合わせ欄をご利用ください

<http://www.mizu.gr.jp/>

### 水の文化 バックナンバーをホームページで

本誌はホームページにてバックナンバーを提供しています。すべてダウンロードできますので、いろいろな活動にご活用ください。

### 編集後記

◆人間が自分以外の事物と共通の生命を持つという発想は共生という概念もあるらしい。生命では大袈裟かも知れないが、もう少し客観的に、また謙虚に、他者中心的に考えて行動できれば、実のある共生も生まれるのではないか。(新)

◆機関誌「水の文化」も今号で30号。私は23号からの参加だが、取材する中で多くの、これまで知らなかった・気づかなかつた水と人とのかわりや知恵に触れてきた。これからはセンターの活動を通してより多くの人に「水の文化」の情報を発信していきたいと思う。(百)

◆設立の準備段階から数えるともう12〜13年になるのか。正直ここまで展開するとは思わなかった。水という言葉に文化とくっつけただけで何と広がるのか。毎回訪ねる取材先の方々にたくさん教えていただいた。これが水の文化と関係があるのか?と尋ねられることもままあった。堅くならず難しくならず生活者視点忘れずに水の文化とかわつていきたいと強く思う。(ゆ)

◆共生。こんな大問題を気軽に語れるわけがない。何しろばい菌とも、電車内の不良学生とも、うるさいペットとも仲良くなれないし、仮に仲良くなっても、それが望ましい社会に直結するかまったく保証されていない。共生とは、目標ではなく、「社会が許容できる幸せ」を考慮するための原初状態のことなのかもしれない。(中)

◆人間と水との関係は、先人の知恵や努力の蓄積によって支えられてきた。こうした歴史、そして水の存在自体に「ありがとう」と言える心を持ち続け、次代に伝えること。これが共生関係を継続させる秘訣であろう。(緒)

◆自然がモデルになった技術が最近注目されている。あるタイムメーカーからは汚れにくい外壁材が開発された。表面に水の膜を保持することで、汚れがついても雨が降れば簡単に流れ落としてくれるという。ヒントになったのは祖先が6億年も前に遡るカタツムリの殻である。(力)

◆折り合わない相手と共に生きることの何と難しいことよ。しかし、マザーは気にせず善を行なえ、という彼女が我慢と忍耐でなく、喜びにあふれて生きたことが、未来の希望ではないか。(賀)

ミツカン水の文化センター機関誌

# 水の文化

## 第30号

ホームページアドレス  
<http://www.mizu.gr.jp/>

禁無断転載複写

発行日 2008年(平成20年)11月

企画協力 沖 大幹 東京大学生産技術研究所教授  
古賀邦雄 水・河川・湖沼関係文献研究会  
陣内秀信 法政大学教授  
鳥越皓之 早稲田大学教授

編集制作 野尻裕一 新美敏之 百瀬友美 小林夕夏  
中庭光彦 緒方大輔 中野公力 賀川一枝 賀川督明

発行 ミツカン水の文化センター

〒104-0033 東京都中央区新川1-22-15 茅場町中塾ビル9F  
株式会社ミツカングループ本社 社会・文化活動センター内  
Tel. 03(3555)2607 Fax. 03(3297)8578

お問い合わせ

ミツカン水の文化センター 事務局  
〒104-0043 東京都中央区湊1-13-2 アリス・マナーガーデン11F  
Tel. 03(3552)7504 Fax. 03(3552)7506